
■■■■ ■ ■■■■ 利用教育委員会通信
■ ■ ■■■ 日本図書館協会図書館利用教育委員会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・「<CUE>利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・<CUE>とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・利用教育関連の情報をお寄せください。
- ・メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1) 第11回図書館総合展フォーラム講演会のご案内
- (2) 第15回図書館利用教育実践セミナー(in 京都)のご案内(第一報)
- (3) 第173回図書館利用教育委員会 開催記録
- (4) 第174回図書館利用教育委員会 開催記録
- (5) 文献紹介1
- (6) 文献紹介2
- (7) 文献紹介3
- (8) 編集後記
- (9) 図書館利用教育委員会委員

-
- (1) 第11回図書館総合展フォーラム講演会のご案内

伝える技術と方法

—情報リテラシー“リレートーク”and“交流サロン”—

日時：2009年11月10日(火) 10:30~12:00

会場：パシフィコ横浜 展示ホール2階 アネックスホール第4会場
<http://www.pacifico.co.jp/>

講師：野末俊比古(青山学院大学) *コーディネーター
天野由貴(相山女学園高・中図書館)
石川敬史(工学院大学図書館)

春田和男（東京家政大学）
戸田光昭（駿河台大学名誉教授）
福田博同（跡見学園女子大学）

悩み、告白、意見……自分の気持ちや考えを他人に伝えることは重要であるがなかなか難しい。図書館員も、図書館の有益性・意義をはじめ、利用方法などを組織内のステークホルダーや利用者へ伝えている。「伝える」には、企画書をはじめとする文書やプレゼンテーションなど多様な方法があり、言葉以外にも図表・イラストなどが用いられる。ここで「図書館員」の力が試されている。本フォーラムでは、日本図書館協会図書館利用教育委員会の各委員による「リレートーク」と「交流サロン」を開催する。具体的には、「学校・子ども」「大学」「大人・シニア」「オリエンテーション」「グッズ」などのトピックを設定して、図書館員が伝える技術と方法について問題提起・話題提供（リレートーク）を行ない、その後、委員を囲んで参加者同士の情報交換の機会（交流サロン）をつくる。

- 主催：日本図書館協会（JLA）
- 企画・運営：日本図書館協会図書館利用教育委員会
- 参加費：300円（JLA個人会員200円）
- 定員：150名（先着順）
- 申込方法：下記の申込書に記入のうえ、JLA事務局あて電子メールで
E-mail：cue@jla.or.jp
- 申込締切：2009年10月29日（木）
- 詳細：図書館利用教育委員会ホームページ
<http://www.jla.or.jp/cue/>

●申込書

《第11回図書館総合展フォーラム講演会》参加申込書

[2009年11月10日（火）]

- 申込日：
- 氏名（氏名ヨミ）：
- 会員種別（いずれかに○を） [] JLA個人会員 [] それ以外
※JLA個人会員の場合は会員番号 []（不明な場合は空欄で可）
- 所属：
- 住所：

- 電話番号：
- 電子メール：

※記入いただいた情報は、今回の研修の企画・運営の参考にするほか、
今後、研修等の情報をお送りする場合などを除き、利用、公表すること
はありません。
=====

(2) 第 15 回図書館利用教育実践セミナー（in 京都）のご案内（第一報）

開催予定日 : 2010 年 2 月 28 日（日）
場所 : キャンパスプラザ京都
<http://www.consortium.or.jp/index.php>
テーマ・講師 : 未定

詳細については、今後、次号以降の通信や当委員会のホームページ等
でご案内いたします。
=====

(3) 第 173 回図書館利用教育委員会 開催記録

日 時 : 2009 年 5 月 12 日（火）18:30～21:00
場 所 : 日本図書館協会 5 階第 2 会議室

出席者 : 青木, 天野, 戸田, 野末, 春田, 福田, 和田の各委員,
(事務局) 久保木
欠席者 : 赤瀬, 有吉, 石川の各委員

前回議事録（案）について、確認のうえ、これを承認した。

1. 報告事項

(1) 2009 年度活動体制（担当者）について
標記について、役割分担を確認した。

(2) 利用教育実践セミナー出版企画（JLA「図書館実践シリーズ」）の
進捗状況等について
標記について、報告があった。

(3) 図書館利用教育ハンドブック学校図書館版（仮称）出版企画の進捗状況等について

標記について、報告があった。

(4) その他

図書館の学校「調べるコンクール」について、広報の依頼があることが紹介された。

2. 協議事項

(1) 2009（平成 21）年度活動方針・計画について

<1> 年間活動計画・日程について

標記について、原案どおり進めていくことを了承した。

<2> 20 周年記念行事について

標記について検討し、今年度行事には「20 周年記念」を謳うこと、および 2～3 月に JLA において出版記念パーティを開催することとした。

<3> 利用教育委員会アーカイブについて

今後、必要に応じて、アルバイトなどを依頼して作業を進めていく可能性があることを了承した。

<4> 利用教育実践セミナーについて

標記について、東京では 7～9 月をメドに、開催することとした。講演者は、候補者に対し、都合のつく日程にあわせて打診することとした。

また、来年 3 月に京都で開催することを了承した。

<5> 利用教育実践セミナー出版企画（JLA 図書館実践シリーズ）について

標記について、最終案を作成することとした（メールで最終確認）。また、「はじめに」については、都合を伺ったうえで、対応を決めることとした。

<6> 図書館利用教育ハンドブック学校図書館版（仮称）出版企画について

標記について、委員会が監修（仮）となることとした。

<7> 図書館総合展企画について

標記について検討し、出版企画の宣伝を兼ねて、委員が分担（例えばオムニバス形式）して、登壇する企画を、総合展委員会に提案することとした。なお、演題は、メール上で相談することとした。

<8> 利用教育グッズ開発について

標記について、委員会として、引き続き、協力していくことを了承した。

<9> メールマガジン発行計画について

標記について、計画を了承した。なお、新委員・委員長からの挨拶や、20周年記念リレーエッセイ（OB/OG）も掲載することとした。

<10> メールリングリスト（CUE, OBG）の運用について

必要に応じて、Yahoo! から Google に移行することを了承した。

(2) その他

<1> 委員長交代について

標記について、追認した。

3. その他

(1) 次回以降の委員会開催日程および学校図書館WG開催日程について

次回委員会は、6月後半～7月前半で日程調整を行う。

次回WGは、7月29日開催で調整を行う。

以上

(4) 第174回図書館利用教育委員会 開催記録

日時：2009年7月2日（木）16:00～19:00

場所：日本図書館協会5階第1会議室

出席者：青木，赤瀬，石川，戸田，野末，春田，福田の各委員
（事務局）久保木

欠席者：天野，有吉，和田の各委員

前回議事録を確認のうえ，承認した。

議事

1. 図書館利用教育実践セミナー（9月・東京）について

別紙1をもとに，プログラムや役割分担について検討・決定した。

2. 図書館総合展（11月・横浜）におけるセミナーについて

別紙2をもとに，テーマやプログラムについて検討した。引き続き，検討を進めることにした。

3. 図書館利用教育実践セミナー出版企画（JLA「図書館実践シリーズ」）

について
進捗状況の報告があった。

4. 「図書館利用教育ハンドブック学校図書館版（仮称）」出版企画について
進捗状況についての報告が紹介された。

5. 20周年記念パーティ（出版記念）について
出版記念を兼ねたパーティの開催について検討した。引き続き、検討を進めることにした。

6. 利用教育グッズ開発について
別紙3に基づいて報告があった。

7. メールマガジンについて
別紙4に基づいて報告があった。

8. ホームページについて
適宜、更新していくことを確認した。

9. 図書館利用教育実践セミナー（2～3月・京都）について
来年2, 3月の土・日で開催することを確認した。引き続き、検討を進めることとした。

10. その他
メーリングリストの移行予定について報告があった。また、次回は9月25日（金）、次々回は図書館総合展セミナー開催時にそれぞれ開催することとなった。

以上

(5) 文献紹介 1

マネジメントセミナーに誌上参加できる実践本
—誰にでも役立つワークブック—

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

文献：『中間管理職とライブラリーマネジメント—ライブラリーも自分も元気に—』丸本郁子監修 人と情報を結ぶWE プロデュース LM ゼミプロジェクト編 人と情報を結ぶWE プロデュース発行
(<http://wepro3.hp.infoseek.co.jp/> ; E-mail: infowe3@gmail.com)
2009年3月 76p. 1,000円(頒価)

本書は、人と情報を結ぶWE プロデュース（以下、WE と略称する）が2008年6月から8月にかけて実施した「中間管理職のためのライブラリーマネジメント/関西」ゼミナールを資源として制作された。WE は2004年1月に設立され、「目的に応じて、多様な専門分野の人材が協働して、フレキシブルなプロジェクトチームを作って事業を行います。現在は（1）人を情報を結ぶ”場”，結ぶ人，活動の活性化，（2）人の元気UPをサポート，（3）情報発信，編集コーディネート，を活動の3つの柱として，ライブラリーマネジメント・ゼミナール，元気UP事業，出版活動等を展開しています。」という活動内容になっている。

ライブのゼミナールを誌上で再現し，読者がワーク参加できるような「レクチュア&ワークブック」として構成している。収録しているゼミナールは，第1回「管理職という立場」6月15日（日）；第2回「やる気が起こる職場をつくるチームマネジメント」7月13日（日）；第3回「ライブラリアンのためのプロジェクトマネジメント—予算獲得から企画・事業実施まで」8月10日（日）の全3回分である。

各ゼミナールは，（1）イントロダクション，（2）講演のレジュメ，（3）レクチュア（講義），（4）ワークショップの説明，（5）用いたワークシート，（6）ワーク結果例とコメントという構成になっており，読者は参加しているような臨場感をもって誌上ワークに参加できる。読みながら，各自がワークシートを完成させればよい。なお，レクチュアは3名に講師によって行われ，第1回は高橋佳子神戸松蔭女学院大学教授（元神戸市東灘区長），第2回は尼川洋子WE プロデュース代表（元兵庫県立女性センター情報アドバイザー），第3回は稲葉洋子大阪大学附属図書館利用支援課長（元神戸大学図書館司書）である（肩書きはゼミナール実施時点のもの）。また，ファシリテーターとして，丸本郁子大阪女学院短期大学名誉教授（元JLA図書館利用教育委員）が加わり，本書の監修を務めている。

本書の最大の特徴は、ここに掲載されているゼミナールが、図書館員だけでなく、さまざまな職種と職場の研修に応用できる内容をカバーしていることである。ゼミナールの内容とステップ、そして、ワークシートとコミュニケーションシートの様式は汎用性があり、大変に有用なものである。これらを活用した多様なワークショップが多数行われ、発展していくことを期待したい。

(6) 文献紹介 2

すぐに役立つ参考文献の表記法—Web時代に即応した実務書—

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

文献：『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』藤田節子著 日外アソシエーツ，2009年4月発行 A5判 144p. 2,000円（税別） ISBN978-4-8169-2179-7

論文を書く際に、必ず明示しなければならない参考文献（図書や文献）の出典を正確に表記するのは、「国際的な著作権のルール」であるが、基本を身につけていない人には、難しいことである。

日本では、「SIST02-2007 参考文献の書き方」が、科学技術分野における基準として利用されている。本書では、この基準の考え方と表記法などに準拠しているが、さらに、新聞記事、判例、テレビ・ラジオ番組、映像資料、音楽などの具体例も加えてある。一般に人たちが、自分のホームページや会社に企画書など、あらゆる著作物において、本書の内容にしたがって記述するように説いている。

本書の構成は、まず「第1章 参考文献の役割」で、参考文献の必要性とその要件を明らかにしており、必読に章である。「第2章 書誌事項と表記法」では、記述する書誌要素のグループと書誌レベル（階層）を解説し、記号方を述べている。「第3章 主な書誌要素の解説は、第2章の詳細な説明である。「第4章 参考文献の具体的な書き方」は、すぐに役立つ内容である。今すぐに、参考文献を書きたい人は、第2章と第3章をとばして、この章で具体例を探し、真似ればよい。

「第5章 参照文献を書いてみよう」では、参照文献を実際に原文献からどう書くかについて、その方法と手順を説明している。原文献は、図書1冊、雑誌記事、電子ジャーナルの1論文、Webサイト・Webページである。最後にまとめとして、練習問題（解答例あり）で実習できるようになっている。

巻末に、付録として、引用のしかた（3p）、参考文献（1p）、参考文献（1p）、関連規格（3p）、索引（8p）、テンプレートアクセスIDがついている。

本書を読み終わったら、Webにアクセスし、テンプレートを使って、すぐに参照文献を正確に書くことができるのは、大変便利なことである。

(7) 文献紹介 3

プレゼンはシンプルで行こう！禅の精神を生かしたアプローチで書かれた解説書

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

文献：『プレゼンテーション Zen—プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア—』Garr Reynolds 著 熊谷小百合訳 ピアソン・エデュケーション、2009年9月発行 B5判 255p. 2,300円（税別）

序文（要約）はPowerPointを使ったプレゼンテーションの見本として書かれていることに、最初の驚きを感じた。「なぜこの本を買うべきなのか」というテーマでスピーチする場合のプレゼンテーション・スライドで、その趣旨は「短い、シンプル、読みやすい、魅力的」である。

本書の精神は「禅」と共通するものがある。「美学、集中力、一体感」などに関する禅の理念と本質は、プレゼンテーションをはじめとする日常的な活動にも応用可能であるということから、書名にZenという文字が入っている。

第1部では本書の真髓を語っており、それは、（1）素晴らしいスラ

イドプレゼンテーションは日本の駅弁（幕の内弁当）に学ぶとよい。

（２）本書は単にアプローチを示すものであり、そのデザインと実践に至る道はいくらでもある。（３）PowerPointによる死は悪い習慣にある。

（４）プレゼンテーションを上手にこなすことは「脳全体」を使ったスキルである。（５）マルチメディアを使ったスピーチに必要なのは「物語」を語ることである。（６）変革のために第一歩は、過去を捨て去ることである。という６項目のまとめになっている。

第２部では、「準備」として、（１）創造性と制約、（２）アナログ式に計画を練ろう、（３）ストーリーを作り上げる、という３項目に分けて書かれている。

第３部「デザイン」では、（１）シンプルがあることの大切さ、（２）プレゼンテーションのデザイン、（３）サンプルスライド、の３項目について述べている。

第４部「実施」では、（１）完全にその場に集中すること、（２）聴衆と心を通い合わせる、の２項目を述べている。

第５部「次のステップ」では、「長い旅が始まる」として、プレゼン向上法を具体的に説いている。

最終部の「終わりに」では、「結論はない、次のステップがあるのみ」としている。そして、「千里の道も一歩から始まる。」という老子のことばを引いている。

なお、本書のエッセンスをまとめた下記のDVDビデオ版も発売されていて、50分で概要を知ることができる。英語版であるが、日本語字幕が付いている。

“Presentation Zen: The video” , (DVD), New Riders; Voices That Matter (<http://www.newriders.com/>), 2009. ISBN: 978-0-321-64704-7 US \$ 29.99

(8) 編集後記

第 74 号をお届けします。今号では、来月に横浜で開催される第 11 回図書館総合展フォーラム講演会のご案内を掲載しました。関心のある方はぜひご参加ください。皆様のご参加をお待ちしております。（春田）

(9) 図書館利用教育委員会委員

(委員長)

野末俊比古 : 青山学院大学教育人間科学部

(委員)

青木玲子 : 和光大学

赤瀬美穂 : 京都産業大学図書館

天野由貴 : 椛山女学園高・中図書館

有吉末充 : 京都学園大学人間文化学部

石川敬史 : 工学院大学図書館

戸田光昭 : 駿河台大学名誉教授

春田和男 : 東京家政大学人文学部

福田博同 : 跡見学園女子大学文学部

和田佳代子 : 昭和大学歯学部

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

< C U E > 利用教育委員会通信 第 74 号 (20 巻 2 号) 2009. 10. 8 発行

・ バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録・変更・解除・お問い合わせ

cue@jla.or.jp

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

[戻る](#)